



## 「祖父の話から考えたこと」

油谷中学校三年 谷村洋平



僕の祖父は、漁師です。親せきのおじさんと二人で、網を仕かけ魚を捕っています。ちかごろ祖父は、食事の時などに、「昔にくらべて魚の量が減ったなー。」とよく言います。小学校二、三年のころは、よ

く釣りに行っていましたが、小学四年に上がるころになると、魚が釣れなくなってしまう、釣りに行くのをやめました。だから僕はどうしてそうなったのかわかりたくなくなり、聞いてみました。祖父に聞いた話をまとめてみると、生活様式などが変わり、海に生活排水が流れ込むという、海の汚染が一番の原因ではないかということでした。

今この問題を、どのようにしたら解決できるのだろうか、一人一人が考える必要があると思います。僕達日本人にとって魚は、なくてはならない食材だからです。

次に思うことは、後継者問題です。現在僕の住んでいる津黄でも、毎年のように、漁業に従事する人が減りつつあります。漁港の整備が進み、港は良くなっているものの、かんじんの漁師が減っているのです。このままでは、水産業はどうなっていくのだろうか、僕は少し心配になりました。そして、なぜ漁師が減るのだら

るかという理由を、自分なりに考えてみました。まず第一の原因は、仕事ができなくて汚いという点だと思えます。夜もまだ明けないうちから夕方遅くまでという長い労働時間と、塩水などで体中塩まみれになったり、網の仕事などで手が荒れたりします。本当に、大変な仕事だと思えます。そして、もうひとつ忘れてはならない事は、沖で遭難などして、行方不明になったりするので、生死にかかわることが多いということです。かなり波があつてしまっている、今日は漁に出ないだろつと思つていても、陸で待っている僕達の心配をよそに、いつの間にか港から出て行っていることもたびたびあります。僕も何度か祖父の船に乗り込み、イカとりや網揚げの手伝いをしたことがあります。

「今日は波がないから。」  
と言われていっしょに行つたのですが、実際沖に出てみると、波が高く船酔いをしてしまいました。でも祖父やおじさんは、なんでもないとこのように船の上で黙々と仕事をしていました。それは、とても僕には出来ないことでした。この仕事を実際に体験してみても、漁業の後継者が減るわけだなと、つくづく思いました。僕も正直なところ、漁師にはなりたくありません。僕の住んでいる津黄、そしてすぐ近くの立石や川尻は、日本海に面していて、古くから漁業の盛んな所でした。僕の祖先は、いろいろな工夫をしながら、魚をとってきたのです。今はまだ、職業として、漁業を選ぶ気になれません。けれど海の汚染や後継者減少という厳しい状況の中で、水産業の問題をどう考えていくかは、僕にとっても、祖父にとっても、また、油谷町にとっても大きな課題だと思えます。僕はこの課題に一生懸命取り組もうと考えています。